

日付:2016年9月25日／聖書:列王記下6:32～7:11

説教:「主の言葉を聞きなさい」

戦争は、どんなに惨く、悲惨なものであるかを、沖縄は知り尽くしている。沖縄のご年配の方々、この目で体で戦の悲劇を知っておられる。そして、いつの時代の戦も、幼い子どもや女性やお年寄りが悲劇に合う。列王記にも戦争の惨さが記されている。ここに記されている状況は、アラム軍がイスラエルのサマリアの城壁を包囲し、一步も城壁の外に出れないようにし飢餓がもたらされた。その結果、「あなたの子供をください。今日その子を食べ、明日はわたしの子供を食べましょう」(6:28)・・・戦争は人間を狂気に変える。何故、聖書に残酷な状況が記されているのか？ この世界が事実このような世界だからであろう。戦争の惨さ、人間の残酷さを聖書は示している。ゆえに、戦争は起こして行けない、戦争は人間が人間でなくなることを人は知らなければならぬ。

「この不幸は主によって引き起こされた。もはや主に何を期待できるのか」(6:33)という。ここは、戦争というものが神を見失わせ、この世に神はいないと失望の世界をつくる。それが戦争である。しかしエリシャは言う。「主の言葉を聞きなさい」と。この後、聖書は「良い知らせ」をもたらす。戦争からの解放、飢饉からの救いがこの後に記されている。この良き知らせは、誰がもたらしたのか？ ああ重い皮膚病を患う者たちからであった。町には入れてもらえない、城内からはじかれた人間扱いされていない、小さくされた者たちから、救いの良き知らせはもたらされた。この出来事は、クリスマスの物語を思い出させる。キリストの誕生の知らせは、野宿しながら夜通し羊の番をしていた羊飼いたちからであった。彼らは家がなく、その時代においては最も貧しい者とされ、人間扱いされていなかった者たちである。その最も小さくされた者たちにキリストの誕生が告げられた。

聖書は、小さくされた者に目を注ぐことを教える。私たちは、小さくされた者に目を注いでいるか？ 私たちの社会は、この国は、小さくされた者にどう向き合っているのか？ 神の言葉を聞く世界であれば、小さくされる者のいなくなるはずだ。この世のクリスチャンと呼ばれる人たちは、本当に神の言葉を聞いているのか？ 私たちは先ず、「主の言葉を聞きなさい」という預言者の戒めに留まらなければならない。(神谷)